

特別研究員（D C ・ P D）申請書提出要領（早稲田大学版）

特別研究員申請書の作成にあたっては、日本学術振興会の「募集要項」及び各様式に記載されている注意事項に留意の上、作成してください。（http://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sin.html）

提出部数等、日本学術振興会の指示と早稲田大学の指示が異なる部分がありますので、ご注意ください。なお、申請書類に誤りがあると、「書類不備」として選考の対象になりませんのでご注意ください。

I. 申請に際して留意すること

1. 申請資格

①現在の資格による申請区分早見表

採用年度である 2015 年 4 月 1 日時点の資格に応じた応募区分は以下の通りです。なお、休学等がある場合は、各自研究科事務所に連絡し、申請区分を確認してください（要証明書添付）。

2015 年 4 月現在の資格	申請区分	備考
博士後期課程 1 年	D C 1 ※ 1	
博士後期課程 2 年 博士後期課程 3 年	D C 2	
博士学位取得後満 5 年未満の方 我が国の人文科学又は社会科学の分野の大学院博士課程に標準修業年限以上在学し、2015 年 3 月 31 日までに所定の単位を修得のうえ、退学（以下「満期退学」という。）し、博士の学位を取得した者に相当する能力を有すると認められる者で、2015 年 4 月 1 日現在、満期退学後 3 年未満の者 博士後期課程に標準年限を超えて在籍する方	P D ※ 2	採用は D C 2 となりますので、D C 2 採用経験者は採用されません。

※ 1 特別研究員に採用されても大学院博士後期課程に不合格となり進学できなかった場合は、採用が取り消されます。現在修士課程 1 年の者で、いわゆる「飛び級」により採用時（2015 年 4 月 1 日）に大学院博士後期課程に進学する予定の方は D C 1 に申請可能ですが、この場合においても、大学院博士後期課程に進学できなかった場合は採用が取り消されます。

※ 2 ①日本に永住を許可されている外国人は応募することができます（要証明書添付）。

②採用後、研究に従事する研究室が大学院博士後期課程在学当時の所属研究室（出身研究室）以外の研究室であること。

③S P Dについては、2015（H27）年度募集において P D に申請し、採用された者の中から特にすぐれた者が採用されます。

②年齢要件

なし ※2014（H26）年度採用分から、P D の年齢要件が撤廃されました。

③特別研究員採用経験者の再申請

再申請には制限があります。日本学術振興会の募集要項「5. 特別研究員採用経験者の申請資格」を参照。

2. 必要書類

申請書作成要領や様式は、日本学術振興会HP（http://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sin.html）からダウンロードして入手してください。

①提出期限

本学において書類を取りまとめて提出する関係上、以下の締切を厳守してください。

★DC 提出期限：各研究科事務所の定める締切日 ※各事務所にお問い合わせください。

★PD 提出期限：5月14日（水）（「簡易書留郵送」または「持参」）必着

※締切厳守。提出期限を過ぎた場合は、受付いたしません。

②必要書類

提出書類		PD	DC2	DC1	備考
(1)	「申請書」（DC 用又は PD 用） DC：1～10 ページが 1 セットとなる PD：1～14 が 1 セットとなる	○	○	○	注 1
		原本 1 セット 写し 7 セット	原本 1 セット 写し 8 セット		
(2)	「評価書」（A4 版、両面コピー） DC: 評価者 1 名分 PD: 評価者 2 名分	○	○	○	注 2
		1 セット (原本 1 部、写し 6 部を 1 枚の封筒に厳封したもの)			
(3)	PD 申請者のうち、日本国籍以外の方は、外国人登録済証明書	△	×	×	
		原本 1 部 写し 1 部			
(4)	「大学院博士後期課程在学当時の所属研究室（出身研究室）選定理由書」（学振指定様式）	△	×	×	注 3
		原本 1 部 写し 7 部			
(5)	DC 申請者のうち、博士課程で休学期間がある場合はその証明書（所属研究科が発行する在学年数に関する証明書）	×	△	×	注 4
			原本 1 部 写し 2 部		
(6)	別添 1（進学希望大学院への連絡文例）および申請書類一式	×	×	△	注 5
				進学希望大学院へ写し 1 部	

※ ○：必ず提出 △：該当者のみ提出 ×：提出必要なし

注1 各セットごとクリップ止めのこと。（**ホチキス止めは不可**。日本学術振興会の指示ではホチキス止めで提出となっているが、ホチキス止めは本学にて行う。）なお、原本、写しともに両面印刷、両面コピーにすること。

注2 「角2」封筒（A4が折らずに入る封筒）に入れ、要厳封。厳封した封筒表書きには、**申請区分（PD・DC2・DC1）、申請者所属大学院名（DC2・DC1）、申請者名、推薦者名を要明記**。

注3 PD申請者のうち、大学院博士後期課程在学当時の所属研究室（出身研究室）を、やむを得ず選定する者のみ作成する。

注4 留学した場合も当該留学期間を休学として取り扱う。留学期間を証明する文書の添付が必要。

注5 DC1申請者で、現在在学している大学院と入学を希望する大学院が異なる場合は、現在在学している大学院に申請書類一式を提出すること。なお、進学希望大学院事務局に連絡の上、その申請書類の写し1部を送付すること。また、進学希望大学院から別途指示がある場合はそれに従うこと。

③提出先

★DC：所属の研究科等事務所

※**DC1に申請予定の早稲田大学の大学院在学生（現在修士課程在学）は、必ず早稲田大学を通して申請します**（早稲田大学以外の大学院博士後期課程に進学を希望する場合でも、早稲田大学を通して申請します）。なお、その際は別添1（進学希望大学院等への連絡添書）および申請書類一式の写しを、進学希望大学院事務局宛に提出してください。現時点で進学先が確定していない方は、決定した段階で速やかに進学先大学院事務局宛に同手続をしてください。

★PD：早稲田大学 研究推進部 特別研究員係に、簡易書留にて郵送または持参

〒169-8050 新宿区戸塚町1-104 早稲田大学 研究推進部 研究支援課 特別研究員担当 宛

※PDの資格で応募する方で、採用後、研究に従事する機関が早稲田大学以外の場合は、**本学では受付・申請をすることができません。提出方法・提出期限等については、受入研究機関に確認し、必ず当該機関の指示に従ってください。**

Ⅱ「申請書」作成上の注意

日本学術振興会のホームページから記入要領・申請書様式をダウンロードして、指示に従うこと（必ず熟読して指示に従ってください）。以下に記載するのは、早稲田大学の注意事項となります。別途ミスの多い事項をチェックリストとしてご用意いたしますので、提出前に必ずチェックを行ってください（4月以降、所属する事務所で配布する予定です）。

1. 全般的事項

- ①募集要項、申請書様式等は、日本学術振興会のHPから各自がダウンロードすること。
- ②DC申請希望者は申請書情報を Web 入力するためのID・パスワード申請書を所属の研究科事務所等へ提出すること。PD申請希望者はID・パスワード申請書を添付して研究推進部 研究支援課宛にメール (rfys@list.waseda.jp) で送信すること。
- ③申請書は「申請書情報（Web入力項目）」と「申請内容ファイル」を両面コピーすること。
- ④申請書原本がカラーの場合は、写しもカラーにて作成すること。

2. 申請書情報（Web入力項目） PD：1-4 ページ、DC：1-3 ページ

※別途ミスの多い事項をチェックリストの形態で作成していますので、提出前に必ずチェックを行ってください（4月以降、所属する事務所で配布する予定です）。

※<http://www-shinsei.jsps.go.jp/topyousei/download-yo.html>「操作手引き（申請者向け）」を参照すること。

- ①申請書右上隅の黒塗りは不要。（研究推進部で対応します）
- ②「課程種別」は、本学大学院の場合は「博士課程（3年制）」を選択（リーディングプログラムの学生は「博士課程（5年一貫制）」を選択）。
- ③DC申請希望者で学籍が会計研究科、教職研究科の方は、「⑫研究科名」において、「9999」を選択し、「具体的な研究科名」をテキスト入力する。
- ④「研究科種別」は、本学大学院の場合は「研究科」を選択。
- ⑤研究指導者・受入研究者情報における所属機関・部局種別等の記載について（次ページ表参照）
早稲田大学では、学術院体制となっている。「その他」で「学術院」をテキスト入力すること。また、研究者の部局コードや部局種別選択にあたり、本属と担当大学院研究科が異なる場合や研究所本属の研究者もいるため、必ず研究者又は研究科事務所に確認すること。なお、部局コード番号は次ページ表を参照。

★(例)創造理工学研究科に所属する学生で、理工学術院の教員が受入研究者となる場合の記入内容

ご本人	【研究科名】	2120	創造理工学研究科	【研究科種別】	研究科
受入研究者	【部局】	0053	理工学	【部局種別】	学術院

3. 「申請書（申請内容ファイル）」 PD:5 ページ以降、DC:4 ページ以降

※申請書の項目名の直下にある注意事項を遵守すること

※別途ミスの多い事項をチェックリストの形態で作成していますので、提出前に必ずチェックを行ってください（4月以降、所属する事務所で配布する予定です）。

- ①「申請書（申請内容ファイル「4. 研究業績」）」について、「学術雑誌の要件とは」等の質問が寄せられることがあるが、これらについては申請者自身で判断すること。
- ②評価書は、提出時に厳封されているため、事務局での提出部数等のチェックが不可能となる。申請者または推薦者において、記入上の注意及び提出部数等、十分に確認のうえ封筒（角2）に厳封すること。また、評価者の自筆署名または押印があること。

申請者用 部局コード（早稲田大学） ※「博士の状況」記入用

所属名称	コード表の研究科名	研究科種別	課程種別	部局コード*
政治学研究科	政治学	研究科	博士課程（3年制）	0026
経済学研究科	経済学	研究科	博士課程（3年制）	0032
法学研究科	法学	研究科	博士課程（3年制）	0024
文学研究科	文学	研究科	博士課程（3年制）	0001
教育学研究科	教育学	研究科	博士課程（3年制）	0086
商学研究科	商学	研究科	博士課程（3年制）	0034
基幹理工学研究科	基幹理工学	研究科	博士課程（3年制）	2101
創造理工学研究科	創造理工学	研究科	博士課程（3年制）	2120
先進理工学研究科	先進理工学	研究科	博士課程（3年制）	2050
人間科学研究科	人間科学	研究科	博士課程（3年制）	0019
スポーツ科学研究科	スポーツ科学	研究科	博士課程（3年制）	0713
社会科学研究科	社会科学	研究科	博士課程（3年制）	0038
アジア太平洋研究科	アジア太平洋	研究科	博士課程（3年制）	0852
国際情報通信研究科	国際情報通信	研究科	博士課程（3年制）	0673
日本語教育研究科	日本語教育	研究科	博士課程（3年制）	0974
情報生産システム研究科	情報生産システム	研究科	博士課程（3年制）	0950
公共経営研究科	公共経営	研究科	博士課程（3年制）	0379
法務研究科	法務(学)	研究科	博士課程（3年制）	0287
ファイナンス研究科	ファイナンス	研究科	博士課程（3年制）	0393
会計研究科	会計	研究科	博士課程（3年制）	9999
環境・エネルギー研究科	環境・エネルギー	研究科	博士課程（3年制）	2276
教職研究科	教職	研究科	博士課程（3年制）	9999

研究指導者・受入研究者用 部局コード(早稲田大学)

箇所名	コード表部局名	部局種別	コード
政治経済学部	政治経済学	その他（学術院）	0031
法学部	法学	その他（学術院）	0024
文学部	文学	その他（学術院）	0001
教育学部	教育・総合科学	その他（学術院）	0750
商学部	商学	その他（学術院）	0034
基幹理工学部	理工学	その他（学術院）	0053
創造理工学部	理工学	その他（学術院）	0053
先進理工学部	理工学	その他（学術院）	0053
社会科学部	社会科学総合	その他（学術院）	0656
人間科学部	人間科学	その他（学術院）	0019
スポーツ科学部	スポーツ科学	その他（学術院）	0713
国際教養学部	国際学	その他（学術院）	0130
政治学研究科	政治経済学	その他（学術院）	0031
経済学研究科			
法学研究科	法学	その他（学術院）	0024
文学研究科	文学	その他（学術院）	0001
教育学研究科	教育・総合科学	その他（学術院）	0750
商学研究科	商学	その他（学術院）	0034
基幹理工学研究科	理工学	その他（学術院）	0053
創造理工学研究科	理工学	その他（学術院）	0053
先進理工学研究科	理工学	その他（学術院）	0053
人間科学研究科	人間科学	その他（学術院）	0019
スポーツ科学研究科	スポーツ科学	その他（学術院）	0713
社会科学研究科	社会科学総合	その他（学術院）	0656
アジア太平洋研究科	国際学	その他（学術院）	0130
国際情報通信研究科	理工学	その他（学術院）	0053
日本語教育研究科	国際学	その他（学術院）	0130
情報生産システム研究科	理工学	その他（学術院）	0053
公共経営研究科	政治経済学	その他（学術院）	0031
法務研究科	法学	その他（学術院）	0024
ファイナンス研究科	商学	その他（学術院）	0034
会計研究科			
環境・エネルギー研究科	理工学	その他（学術院）	0053
教職研究科	教育・総合科学	その他（学術院）	0750
その他研究所等	その他	附置研究所等	9999

Ⅲ. 研究推進部の支援について

①応募説明会の開催

研究推進部では次の日程で申請書類作成に関する説明会を開催いたします。

日 時：2014年3月31日（月）13：30～15：00

場 所：早稲田キャンパス 小野記念講堂

※配信：所沢キャンパス 100 号館第一会議室、北九州キャンパス N101

本庄キャンパス 93 号館 N306 ※いずれも予定

参加方法：事前申込み不要です。当日直接会場へお越しください。

資 料：資料は当日配布いたしますが、あらかじめ、学内発行の「2015(H27)年度日本学術振興会特別研究員(DC・PD)への応募について」(学内作成)と日本学術振興会サイトよりダウンロードした申請関係書類一式を読んで参加してください。

特記事項：当日は、審査委員経験者と採用経験者をお招きし、ご講演いただく予定です。

②採用者の応募書類の開示について

特別研究員採用者の申請書類を、ご本人のご了解のもと希望者に開示する予定です（パスワード設定あり、印刷不可）。提供を希望される方は、rfys@list.waseda.jp宛に、「所属」「氏名」「応募予定区分(DC1・DC2・PD)」「領域」「分科」をご連絡ください。

※すべての領域、応募区分に対応できるわけではないことをご承知おきください。

③申請にあたっての質問への対応について

問合せ事項がある場合には、rfys@list.waseda.jp宛に「所属」「氏名」「応募予定区分」「領域」「分科」「質問事項」をご連絡ください。同じ領域または近接領域の特別研究員採用者から可能な範囲で回答いただけるように研究推進部が仲介して対応いたします。

※すべての領域、応募区分に対応できるわけではないこと、採用者の都合により回答ができない場合があることをご承知おきください。

参考 1 採用内定後の手続き等について（例年のスケジュール）

○採用、研究奨励金に関する手続等は、日本学術振興会と内定者の間で直接行っていただくことになります。日本学術振興会からの指示に従ってください。

○科学研究費補助金（特別研究員奨励費）に関する手続や、資格変更・辞退・採用中断・海外渡航など、受入機関である大学の承認が必要な手続については、すべて大学を通じて行うことになります。

○原則、特別研究員以外の身分を持つことはできませんので、ご注意ください。

※ 下線の項目は採用について、それ以外は科学研究費補助金に関するもの。

10月下旬～11月上旬 第一次選考結果通知（学振→本人・大学）

「面接免除で採用内定」「面接候補者」「不採用」のいずれかの通知
電子申請システム上で選考結果が開示されます。

↓

11月下旬～12月上旬

第二次選考：面接

SPD選考：面接

（第一次選考合格者のうち二次選考が免除された採用内定者で特に成績優秀な者）

↓

1月上旬 第二次選考結果通知（学振→本人・大学）

電子申請システム上で選考結果が開示されます。

↓

2月上旬 科学研究費補助金(特別研究員奨励費)募集の通知（学振→大学→本人）

↓

2月中旬 科学研究費補助金(特別研究員奨励費)申請書締切（本人→大学→学振）

・大学でとりまとめて提出する必要があるため、日本学術振興会の締切より約2週間程度早く、大学の締切を設定させていただきます。

- ・例年、募集開始から締切まであまり余裕がないため、誤りのないよう慎重に書類を作成し、提出期限を厳守してください。また、申請内容について大学より問い合わせを行う場合があります。別添の「特別研究員申請者連絡票（早稲田大学用）」を必ず提出いただくとともに、長期留守にされる場合には代理の方にお問い合わせするなど、確実に連絡が取れるよう、ご協力をお願いします。
- ・科学研究費補助金(特別研究員奨励費)は、下記＊１にもあるように、申請した研究課題を遂行するための経費となるため、使途などに制限があります。募集要項等をよく読み、研究指導者とも十分打合せのうえ、申請を行うようにしてください。

↓

4月1日 採用決定

↓

4月下旬～5月中旬 科学研究費補助金(特別研究員奨励費)内定通知（学振→大学→本人）

- ・当該年度の研究計画および経費の使用について、「交付申請書」を作成いただきます。研究費の請求書となる重要な書類です。配付書類を熟読し、誤りのないよう慎重に作成してください。
- ・大学でとりまとめて提出する必要があるため、文部科学省の締切より約2週間程度早く、大学の締切を設定させていただきます。
- ・内定通知から締切まであまり余裕がないため、大学への提出期限を厳守してください。
- ・科研費特別研究員奨励費は、内定通知日以降、支出が可能となります。6月頃に科研費の使用に関する説明会を行います。

＊１ 科学研究費補助金（特別研究員奨励費）

毎月支給される研究奨励金とは違い、申請した研究課題を遂行するために支給される研究費です。そのため、研究課題遂行以外の目的に使用することはできません。

例えば、大学に通うための定期券代等は、当該研究課題に直接関係ある経費とはみなされないため、科研費より支出することはできません。その他、応募の際に配付される書類を熟読し、申請を行うようにしてください。

＊２ 海外渡航

特別研究員に採用された場合1ヶ月以上の海外渡航には、事前に海外渡航届の提出が必要となり一定の制限が設けられています。

- ◆D C：渡航の目的は、①研究指導の委託、（所属研究科の承認が必要）②フィールドワーク、資料・文献収集、（研究指導者による理由書が必要）に限られます。通算渡航期間は、①の場合上限はありませんが、②の場合は採用期間の1／2までとされています。
- ◆PD・SPD：通算渡航期間に上限があります。PDについては、採用期間の1／2まで、SPDについては、採用期間の2／3以内とされています。

なお、特別研究員採用期間中は学生としての留学はできません。特に、現在留学中、今後留学を予定しているという申請者は、採用が内定した場合、留学を取りやめていただくことになりますので、この点についても考慮して特別研究員としての申請を行ってください。

参考2 申請者へのアドバイス ～過去の採用者アンケートより抜粋～

※過去の採用者アンケートで類似の回答が多かったものを抜粋しています。

1. 申請書類を作成するにあたり特に注意した点は何ですか。

- 自分の研究を分かりやすくコンパクトにまとめることに注意しました。審査員は専門分野でない方もいるため、いかに分かりやすく概要をご理解いただけるかを念頭におきました。また、自分の研究を商品とし、営業するような気持ちで作成しました。この研究は何故必要で、どんなところが新しいかなど、自分の研究が今後どう社会に生きてゆくかを強く訴えられるよう努力しました。
- 見やすく読みやすい文章、レイアウトにすること。必ず指導教員等に添削してもらうこと。
- なるべく発展性のあるテーマを選択した上で、できる限り具体的に研究計画と手法を記載するように心掛けました。他方で、実現可能な計画であることを示すために、無理に範囲を広げたり、学際的な研究を主張するようなことは控えた。
- 指導教授の科研費申請の書類が大きく参考になった。特に、研究の重要性についての説明が独りよがりにならないためには、良い申請書を参考にして自分なりにアレンジする事が大切だと思う。
- 全体の記述に一貫性を持たせた。①問題の所在の明確化、②現在までの研究、③これからの研究が相互に関連し、統一性を有していることは必須であると考えた。
- 各ページの上部に書かれている注意書きに従って正しく記述すること。他分野の審査員を想定して、稚拙な表現にならないよう気をつけつつ、専門用語をできるだけ避け、要点を絞って主張すること
- 語学などの試験を受け、自己記述欄等に客観的データを記述することで、文献読解能力をアピールした。

2. どうすれば採用されると思いますか。

- 他の分野の人が読んで理解できるように全体を通して分かりやすく書くこと。自分が行う研究の特色をはっきり記載して、他の研究との差別化をはかることを行う。
- 私は業績面ではほとんどゼロに近い状態でした（学内誌への掲載論文一本のみ）。業績はあればあるだけ自分にとっては安心なのですが、私のような例もありますので、出願・採用面ではほとんど気にする必要はないのでは？それよりも研究計画を可能な限り具体的・実現可能なものに練り上げることが大切だと思います。そのうえで、この研究は日本で自分しかしていないと自負できるだけの独自性を、先行研究との比較も含めて明確に打ち出すことです。また、申請者の研究計画と指導教授の推薦書の内容が食い違っていると、評価面でかなりマイナスに響くと聞きます。日頃から指導教授には自分の研究について話しておく、申請書を事前に教授に見てもらい、など怠らないほうが良いと思います。
- DC1は公的な業績がなく、学内の研究会発表位だと思うが、業績欄にはそれらを全て書いた。ここで重要なのは、各業績につながりを持たせること。あくまでDC1の場合はこれまでの業績よりも今後の可能性にお金を出す、という気がするため、研究計画は具体的に書くこと。発展性+実現性がないと思われたらダメだと思う。
- 着手する研究の意義を詳細に説明し、研究に対する自身の意欲を理解してもらえるような内容の申請書を作成する。
- 早くから情報収集、書類作成に着手する、採用者の書類を見せてもらったりそのアドバイスを聞く、草稿を早い段階で複数の人に見てもらい、何度でも諦めずに挑戦する。
- おもしろい、やってほしいと思わせること。やれそうと思わせること。

特別研究員に応募後、面接の通知があった方には、別途面接に関する情報（採用経験者アンケート記述）をご提供する予定です。

別添 1

修士課程 2 年次生以上等で早稲田大学以外の大学院研究科に進学を希望する方へ

この場合、現在在学する大学院と入学を希望する大学院が異なる場合（早稲田大学以外に進学を希望する場合）については、申請書類の写し一式とともに、以下のような書式で添書を、あらかじめその当該大学院の事務局宛に提出する必要があります。

=====

（添書作成例）

平成 2 6 年〇〇月〇〇日

（受入研究機関名）

〇 〇 大 学 御 中

（出身大学）早稲田大学
氏 名 〇 〇 〇 〇

2 0 1 5（H 2 7）年度 日本学術振興会特別研究員の応募について

私は、平成 2 7 年度日本学術振興会特別研究員（D C 1）に、早稲田大学を通じて応募書類を提出いたしました。採用後の研究指導者が貴機関所属の下記教員となりますので、採用された場合には受入れ方、ご配慮いただきたく、お願い申し上げます。

記

1. 採用予定期間

平成 2 7 年 4 月 1 日 ～ 平成 3 0 年 3 月 3 1 日までの 3 年間

2. 受入研究機関の研究指導者氏名

〇 〇 大 学 教 授 〇 〇 〇 〇 ⑩

3. 申請者名・連絡先

早稲田大学 〇〇研究科 ××課程 △年 〇 〇 〇 〇 ⑩

〒〇〇〇-〇〇〇〇 東京都〇〇区〇〇 1-1-1 TEL 03-0000-0000

以 上